

黒木西

黒木西小

学校だより

文書:校長 齋藤英義

令和4年10月26日(水)

NO.38



修学旅行とゲーム障害

後期が始まり3週間が過ぎようとしています。すでに修学旅行も無事行うことができ、明日(29日)のスポーツ集会に向けて最後の追い込みに入っております。スポーツ集会についての内容は次回に譲るとして、今回は修学旅行でのこぼれ話とスマホについての話題を紹介いたします。

修学旅行で西小良点発揮!

毎月2回の登校班見守りにおいて、積極的にあいさつのおかげで行っていた声かけが、子どもたちは長崎市内を移動するとき、すれ違う方に積極的にあいさつを行うことができ、昨年にも引き続き今年も同行されたガイドさんが、「西小学校の子どもたちって、本当によくあいさつしますね。去年も思いましたけど、たくさん学校の引率をしていますが、これほど気持ちの良いあいさつをしてくれる子どもたちはいませんよ。」とお褒めのお言葉をいただきました。

良点2つ目。

戦争体験者からの講話を聴きました。私も、子どもたちの後方から聞いておりましたが、子どもたちの微動だにしない講話への集中力を感しておりました。



そして、講話をしていただいた先生へお礼に「向うと」あまりに子どもたちが真剣に聞いてくれるので、つい私の話も長くなってしまいました。子どもたちも「長くなってしまいましたね。」と、修学旅行の目的をしっかりと自覚した子どもたちを誇らしく感じました。

あなたをいい人に任命します!

長崎市内グループ学習時、Aさんが荷物を路上に置いて、靴ひもを結び直していました。すると、同じグループのBさんがスツとその荷物を持ってくれたのです。頼まれたからするのではなく、さりげなく友達の荷物を持ってあげることができたBさんに向かってAさんが一言、「あなたをいい人に任命しますよ!」とのこと。私も思わず「うまい!」と叫んでしまいました。

そして同時に、こんな時は「ありがとう!」しかないと思いついて自分の反応力の乏しさを痛感した瞬間となりました。



八女市小学校長会では、子どものスマホ(タブレットを含む)所持や使用等の実態把握のために、隔年でアンケートを実施して、先日その結果が公表されました。

2年前の結果と比較すると、スマホ等の機器を所持する子どもが確実に増えています。本校では、69%以上(65%)の子どものスマホを所持しているか、家族と共用していると回答しています。

※(内数字は八女市全体。以下同様)

スマホの活用法については、ゲームをやっていると回答した子どもが25%、音楽や動画の視聴が30%、

スマホの利用時間については、平日でも2時間以上と答えた子どもが31%、土・日・祝日等の休みの日になると51%、心配なのは、平日も休みの日も5時間以上と答えた子どもが10%以上(平日7%、休みの日14%)、いたこと。便利な刃物も使い方を誤ると自分や人を傷つける怖い物に…。要するに使い方が怖いというわけですが、市校長会としては、スマホについて所持することを禁止するものではなく、いかにスマホと上手に付き合っていくことができるかを模索しているところだ。



そんな中、先日次のような新聞記事を目にしました。

「富山県内の小学生を対象に実施したアンケート調査で、オンラインゲームについて日常生活に問題が起きてゲームがやめられないなど「ゲーム障害」が疑われる児童が6.5%に上った。(略)世界保健機関(WHO)は19年に「ゲーム障害」を依存症の一つに認定した。(略)専門の医師によると小さな子どもは短期間でも依存症に至るケースもあり、注意が必要であるという。またネット利用時間が2時間以上と回答した児童の半数以上が「ゲーム時間をコントロールできない」と答えていたことも分かった。研究者は「子どもにとって、オンラインゲームは依存性がある。将来大きな問題につながる可能性がある。家庭内でルール作りが必要だ」と警鐘を鳴らしている。」



前述の市内アンケートによると、家庭内でのルールがあるかとの質問には、58%、54%があると答えています。保護者の皆様、果たしてこの数字で子どもたちをゲーム障害から守れるのでしょうか?

